

# 平成30年3月期 第3四半期決算資料

福山通運株式会社  
平成30年2月14日

# 1. 連結業績

(単位：百万円)

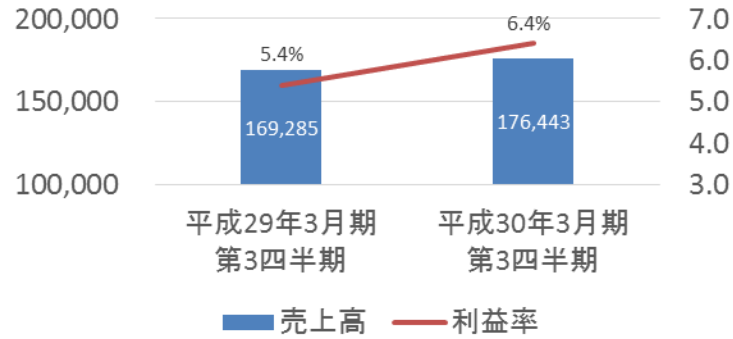
項目	平成30年3月期 第3四半期	平成29年3月期 第3四半期	前年同期比
売上高	201,412	192,644	104.6%
営業費用	189,776	183,236	103.6%
営業利益 (営業利益率)	11,636 (5.8)	9,408 (4.9)	123.7%
経常利益	12,773	10,752	118.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,386	8,121	103.3%

売上高は、輸送量の伸び等により、前年同期比+4.6%となる  
営業費用は、人手不足から人件費等の外注費が増加し、前年同期比+3.6%となる  
営業利益は、売上高の増加により前年同期比+23.7%となる

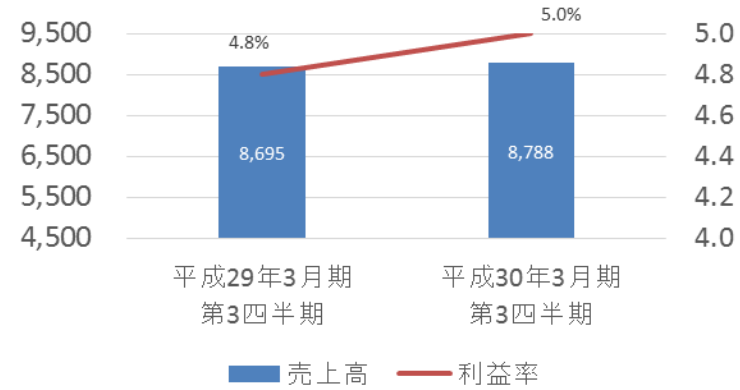
## 2. 事業別売上高

(単位:百万円)

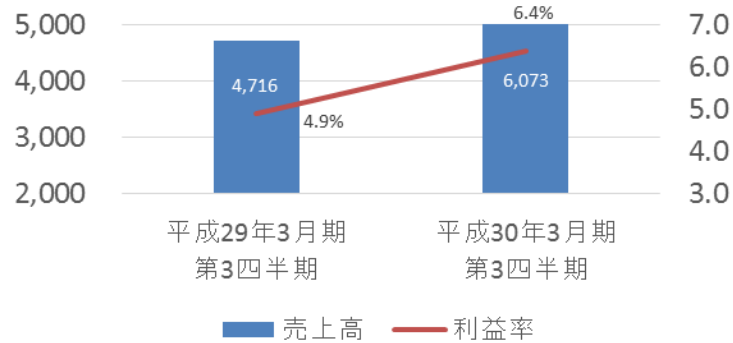
運送事業(ネットワーク・チャーター・引越など  
福山通運グループの中核事業)



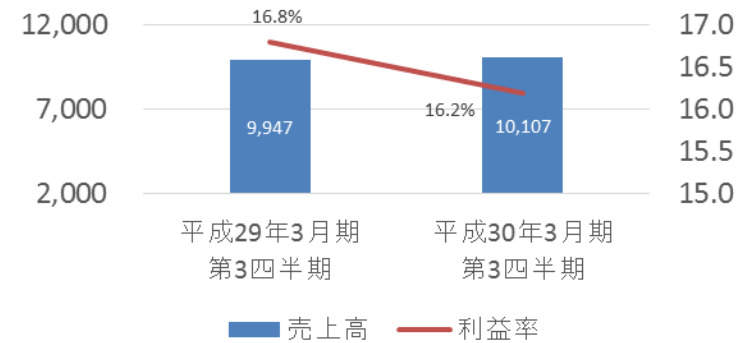
流通加工事業(貨物保管・物流加工・倉庫など)



国際事業(国際運送・国際利用運送  
(フォワーディング)・通関など)

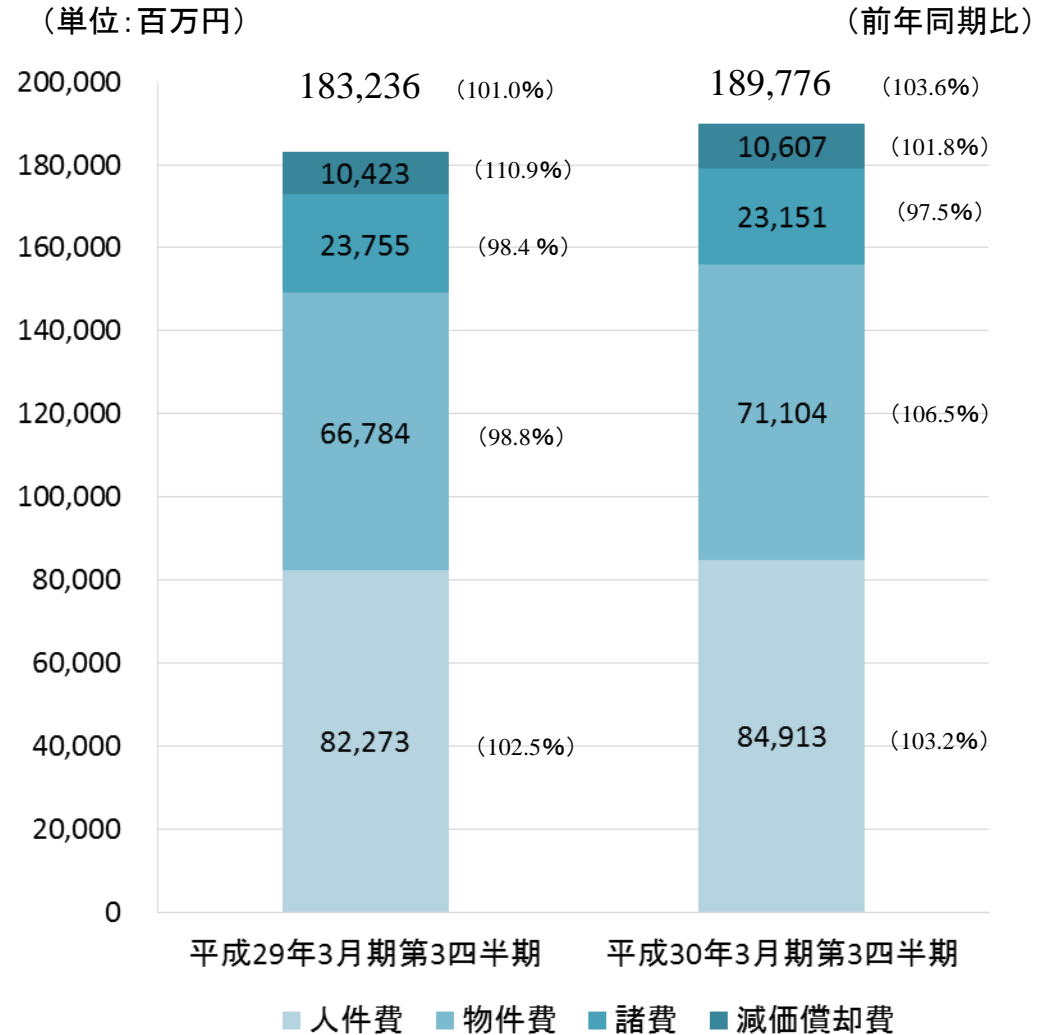


その他事業(不動産賃貸・商品販売・コンビニ・  
ボウリングなど)

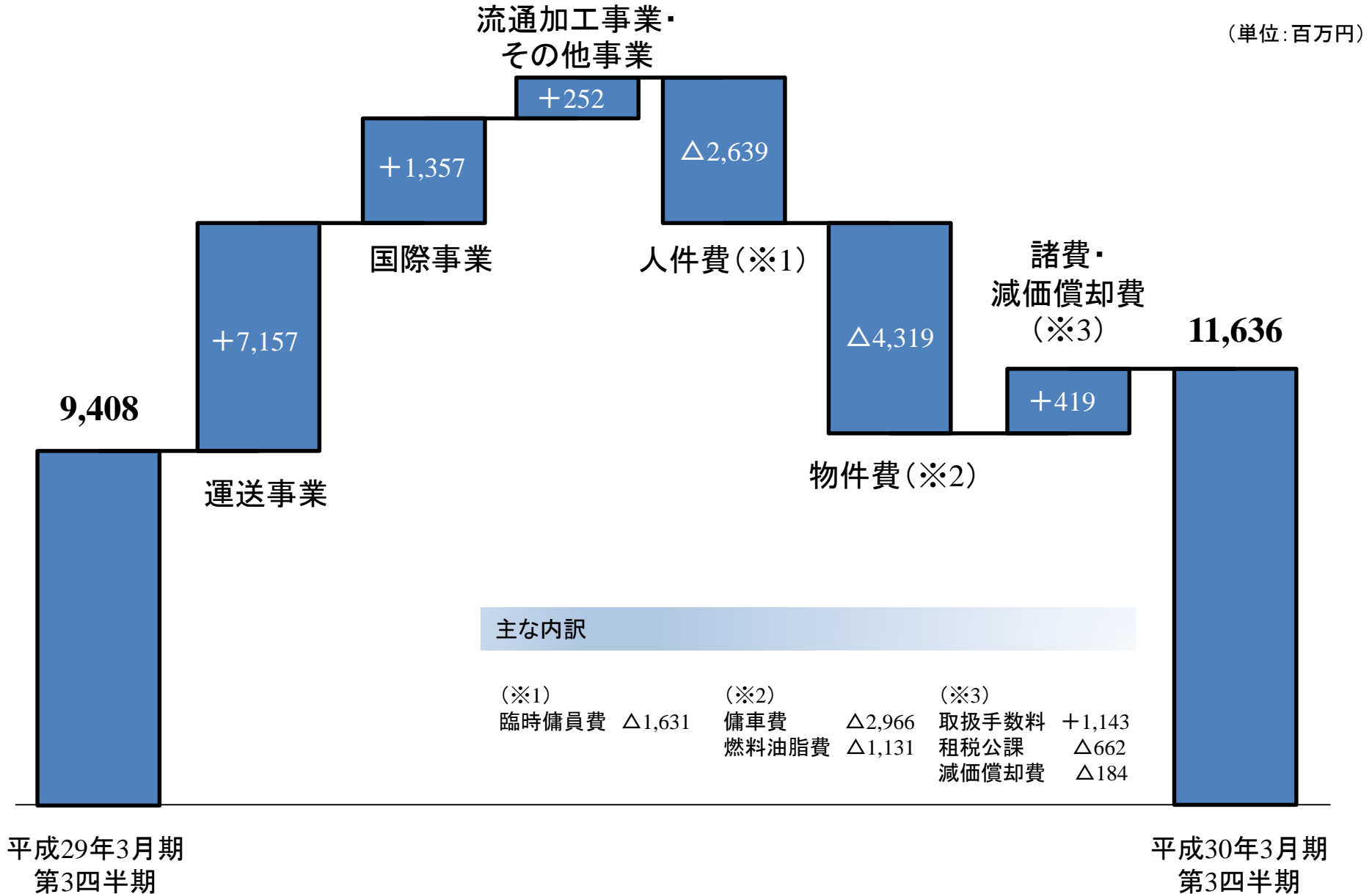


### 3. 連結営業費用の増減要因

- 人件費  
輸送量の増加による外注人件費が大幅増加(+1,631百万円)
- 物件費  
備車費は、物量が増加したものの業務の効率化により想定よりも抑制(+2,966百万円)。燃料油脂費は、価格の上昇により増加(+1,131百万円)
- 諸費  
取扱手数料が大幅に減少(△1,143百万円)するものの、租税公課(+662百万円)及び国際関係費(+408百万円)が増加
- 減価償却費  
ターミナルの新設、省力化に対応した機械設備の導入により増加(+184百万円)

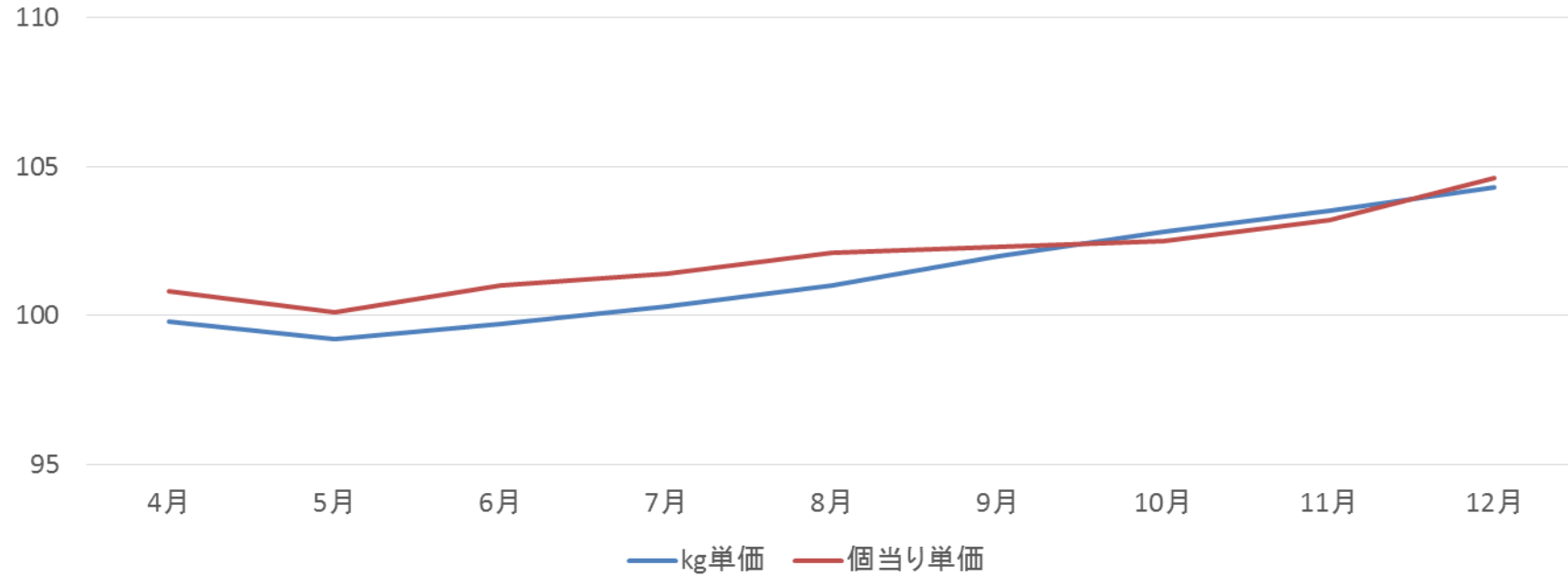


# 4. 連結営業利益の増減要因



## 運賃是正

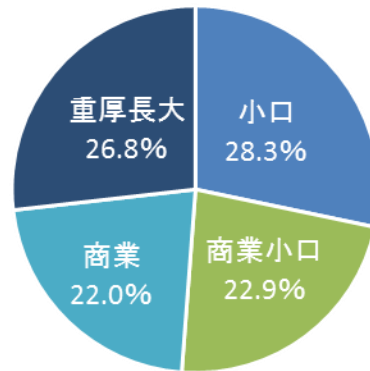
(前年同月比/単位: %)



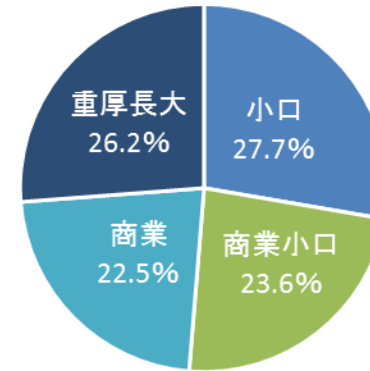
# 6. 運送事業(その2)

## ■ 運賃占有率推移

平成29年3月期第3四半期

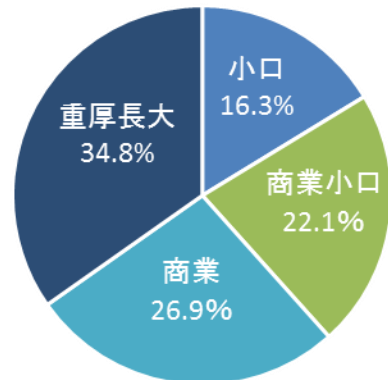


平成30年3月期第3四半期

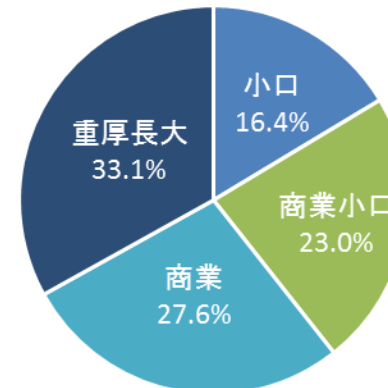


## ■ 重量占有率推移

平成29年3月期第3四半期



平成30年3月期第3四半期



\* 当社の荷物分類定義

小口 : 1件1個30kg以下

商業小口 : 1件5個120kg以下

商業 : 1件6個121kg以上

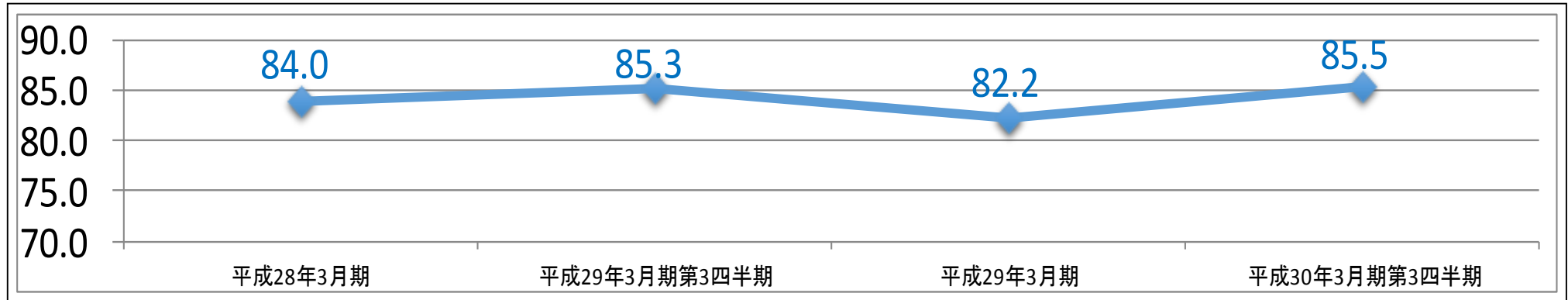
重厚長大 : 1個100kg以上または1件500kg以上

# 7. 運送事業(その3)

## 運行便積載率と運行便自社化率の推移

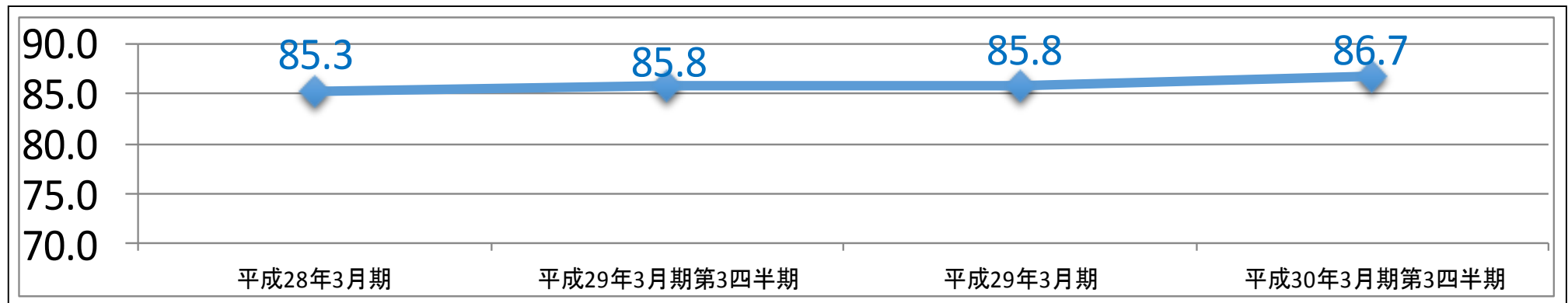
### ✓ 運行便積載率

(%)



### ✓ 運行便自社化率

(%)





# 8. 平成30年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	平成30年 3月期予想	平成29年 3月期実績	増減	コメント
売上高	266,400	255,677	10,723	運賃改定の効果や国際事業の拡大
営業利益	13,200	11,044	2,156	物量の増大への対応などによるコスト増加はあるが、売上高の増加により増益
経常利益	14,500	12,967	1,533	助成金収入の減少はあるが、売上高の増加により増益
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,600	9,448	▲848	特別利益の減少により減益